

様式第2号

視察研修先	東京都港区議会	氏名	荒木 春吉
視察研修項目	本会議における手話通訳と文字通訳（字幕）について		
感想・所見など			
<p>1 この手話通訳と文字通訳（字幕）を導入した背景には、平成28年に施行された「障害者差別解消法」による、障害者に対する合理的配慮の提供が義務付けられたこと。その後、令和元年12月に施行された「港区手話言語の理解促進及び障害者の多様な意思疎通手段の利用に関する条例」や港区聴覚障害者協会等からの要望を受けて、令和2年2月の本会議中継から実施された。</p> <p>2 手話通訳は議場裏のスペースで撮影した手話通訳映像を中継画面の右上に挿入し、文字通訳（字幕）については、タイピストがリアルタイムで字幕を作成し画面下に表示している。会議後約1週間で字幕を修正した詳細版を配信している。</p> <p>3 手話映像・字幕挿入のための映像システム改修や必要機器購入・設置費用として約290万円、手話通訳費用が年間41時間を想定して約120万円、字幕変換費用が年間約360万円。予算からすると本市での導入はなかなか厳しいと思われる。</p> <p>4 手話通訳と文字通訳を導入してから約5年が経過したが、反響については正式な調査はしていないが、動画配信の視聴数についてはライブ配信が年々大きく伸びてきている。（令和5年：1.3万件 → 令和6年：2.1万件）</p> <p>5 傍聴席に2台のモニターを設置し、議場内で手話通訳と文字通訳（字幕）を確認しながら議会を傍聴することができる。議場は間接照明と落ち着いたカーペットの色調がとても素晴らしいと感動した。</p>			

様式第2号

視察研修先	埼玉県狭山市議会	氏名	荒木 春吉
視察研修項目	狭山市議会デジタル化推進方針について		

感想・所見など

- 1 「第3次狭山市情報化基本計画」で掲げている、従来の枠組みを抜本的に見直したスマート自治体への転換を推進するための方向性を示すものと位置づけ令和3年6月にデジタル推進特別委員会を組織し、市議会のデジタル化について協議を進めてきた。
- 2 令和4年12月に「狭山市議会デジタル化推進方針」を策定し、令和9年4月までを推進強化対象期間とした。その中で次の5項目を基本姿勢とし、デジタル化を推進する際の考え方及び方向性として示している。
 - ①市議会のデジタルイゼーション・デジタルライゼーション
 - ②情報セキュリティ対策と議会棟インフラ整備
 - ③議員のICTリテラシーの向上とBPR
 - ④市民等への議会情報提供
 - ⑤SDGsに貢献したデジタル化
- 3 デジタル化推進により文書共有システムを導入し、大幅なペーパーレス化と事務局職員の働き方改革を実現している。
- 4 セキュリティやネットリテラシー等については、会派内や議員間等で学習しておりICTプロジェクトチームの座長が格差の解消に向け積極的に対応している。
- 5 市長部局との情報共有と合意形成による、社会動向を捉えた情報化施策の展開や利便性の向上及びコスト縮減等に寄与する施策を推進しているが、執行部との情報共有については、不安や課題もある。